

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和5年度前期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

高野 嘉寿彦

信州大学全学教育センター 点検評価・FD 委員長

金沢 謙太郎

1. 点検の概要

令和5年9月19日（火）に実施された、令和5年度第4回教育企画委員会共通教育部会において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要な科目「データサイエンス（以下、DS）リテラシー」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当センターの平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- ・ 本科目は、令和5年8月25日付で、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 認定制度（リテラシーレベル）」で認定されており、この制度で示されている内容に従って、授業実施や自己点検・評価を行った。
- ・ 令和5年度前期では、人文学部，教育学部，経法学部，医学部(医学科)，農学部生合わせて約900名が履修し，学部ごとにクラス分けを行った。
- ・ DSリテラシーは各期の前半（前期の場合は4月～6月）に，完全オンデマンド形式（全8回）で実施した。単位を修得できなかった者については，各期の後半で再履修ができるようにした。
- ・ 令和5年度前期では，前半において全体の9割以上が単位を修得し，後半の再履修クラスも含めると全体の約95%が単位を修得した。
- ・ 前期の前半・後半ともに，すべての小テストを受験し，すべての課題を提出した者は，取り組みの質によらず単位を修得できているため，今後は「課題に取り組みせる仕掛け」をより強化していく必要がある。
- ・ 学生に対するアンケート結果から次の3点に関する知見を得た。
 - DSリテラシーの良い点に関する意見では，「自分の好きな時間に取り組める」などのオンデマンドに関する意見や，「今後必要となる知識が得られる」などの知識獲得に関する意見があった。
 - DSリテラシーの改善点に関する意見では，オンデマンド授業のためか「資料が多い」「動画説明がもっと欲しい」という意見があった。小テスト問題や内容の難しさに関する意見もあった。
 - 「学習方法に関する後輩へのアドバイス」として，「自分で調べる」「自分で理解する」といった主体的学習に関するアドバイスや，「(小テストを受験する前に) 確認

問題を解く」といったアドバイスがあった。

以上の報告を受け、部会員との質疑応答では「課題に取り組ませる仕掛け」を中心とした議論が行われた。特に、令和5年度後期に履修する学部の委員から、学生対応の協力に関する提案等が出され、平井准教授から「課題取組状況が思わしくない学生が出た場合は対応の協力を依頼することもある」旨の発言があった。

2. 評価の概要

昨年度に引き続き、すべての課題に取り組み、提出することで単位が修得できる状況であったことから、特に大きな問題点は見当たらなかった。「課題に取り組ませる仕掛け」については引き続き検討を行い、各期前半における単位修得率の向上を目標として、今後の授業運営を行っていくことを確認した。

以上